

医療現場の女性たちが観た映画「神様のカルテ」――



8.27 映画公開記念座談会

長野県在住の現役医師によるデビュー作であり、話題のベストセラーとして注目を浴びている「神様のカルテ」が映画化されました。感動の物語を演じるのは、初共演の櫻井翔と宮崎あおい。より人間らしく生きよとする人々が織りなす優しい愛情に満ちたストーリーは、観る人の心に静かに染み入ります。8月27日(土)の全国ロードショーに先駆け、医療現場の第一線で活躍する医師、看護師のみなさんに「神様のカルテ」をご覧いただき、ご自身の経験を踏まえたうえで感想を語り合ってもらいました。(司会/ 森川 みどりさん(タレント、シネマコミュニケーター))



看護師 北村 愛子さん
急性・重症患者看護専門看護師、
りんくう総合医療センター
大阪府立泉州救命救急センター
総看護師長



看護師 大橋 奈美さん
訪問看護ステーション
ハートフリーやすらぎ 管理者



医師 松尾 美由起さん
医療法人松尾クリニック 院長

優しさとあたたかさが癒されました

医療の現場で繰り広げられる 多彩な人間模様



司会(森川) 「神様のカルテ」をご覧になっていかがでしたか。
大橋 新人看護師の水無さん(朝倉あき)が末期がんの患者さんの背中をすつと、さすってましたよね。あのシーンは自分とだぶつて、とても印象的でした。患者さんの痛みや苦しみを、少しでも薬にするためには、どうしたらいいのかが、看護師は一生懸命考える。患者さんは、そのひたむきさに癒されると言ってくれます。そういうことを振り返らせてくれる映画でした。
松尾 以前、病院に勤務していたときは東原一止医師(櫻井翔)のようなジレンマがいつもありました。映画では、患者さんに付き添っていてあげたいけれど、二人のめり込むと他が見えなくなる、という台詞がありました。その通りなんです。感動したのは、夢破れた学生がアパート(御嶽荘)を出て行くのを、みんなで送り出すシーン。とても心がこもっていて、あんなにあた

たかな気持ちで医療を含めて、いまの世の中にどれだけの人がか、考えさせられました。
北村 いつも映画を観終わって、たかろくアッパーされた部分だけ強烈なイメージが残るんですが、この作品は静かな時間の流れを見ているようで、すべてのシーンが心に残りました。二人ひとりが悩みながら丁寧な生きている姿、それぞれ、

私も興味深い。映画を観て思っただけですが、神様って、意外とみんなのなかにはいるのかもしれない。
司会 映画では、患者さんのなかでも安曇さんが特に優遇されていた感じがします。
大橋 優先順位こそあれ、すべての人に特別にというのは、いつも追求しているところ。それにしても、栗原先生は超多忙ななか、安曇さんによく付き合っていました。しかも自分のことは後回しにして、患者さんに寄り添って

いらっちゃって。
司会 看護師さんとしては、栗原先生みたいな医者さんがいいんじゃないか。
大橋 病みだけでなく、患者さんを丸ごと包もうとしている。栗原先生のハートはあつたかいです。一方、ドライに見えるのが砂山先生(要潤)でも、患者さんの容態が急変したときに駆けつけたら、栗原先生の将来を考えたところをみると、本当は優しいのかもしれない。
ひたむきに生きることの
幸せを多くの人に感じて欲しい



司会 描かれていたキャラクターは、実際にいらつしやる？
松尾 はい。登場人物だけではなく、病院の忙しさや雰囲気もリアルのアカデミックな雰囲気もリアルでした。
司会 松尾さんは医師の妻でもあるので、栗原先生の妻の榛名さん(宮崎あおい)の立場がわかりになるのではないですか。
松尾 夫も自分の無力さを悩んで



の人間模様が描かれていたのがよかったです。
司会 ご自身の経験のなかで、共感されたことはありますか。
北村 映画の舞台と同じ救急病棟の看護師なので、共感する点は多くありました。病院には、24時間365日、救急の患者さんが大勢いらっしゃいます。安曇さん(加賀まりこ)が過ごされた時間は、終末期、人生の終わりのときです。とても忙しい時間帯も、ゆつくりとした時間帯も描かれていて、登場人物全員の人生が丸ごと入っている感じがします。「神様のカルテ」というタイト

いた時期がありました。そのときは、支えるのが私の役目かなと思いましたが、榛名さんは何も言わず寄り添って、毎日神様に願掛けをしていて、悩んでいるときは、ただそばにいてくれることが一番の協力になるのです。逆に、私も悩んだときは夫にサポートしてもらっています。
司会 ご自身なら、この人と同じような登場人物はいますか。
大橋 新人看護師の水無さん、主任看護師の東西さん(池脇千鶴)、看護師長の外村さん(吉瀬美智子)それぞれに共感できる部分があ

りました。私も彼女たちと同じ経験をしてみました。苦しんでいる患者さんに先生は何もしないと詰りめ寄った20代ころもありました。経験を積み、東西さんにもなつたけれど、水無さんの気持ちも忘れてはいなかったとか。そういうことを思いました。
司会 この作品を、どんな方におすすめしたいですか。
北村 生きていくうえで、いろいろな幸せがこの映画の随所に描かれています。だから、医療関係の人も、患者さんの立場でも、病気が無縁の人も、人生がうまくいかなくても悩んでいる人も、どの人の心にも響く映画だと思えます。
松尾 仕事で疲れきって、落ち込んで、何もしたくないという人にも観て欲しいですね。どんなに疲れていても頑張れるし、夢も持てる。そうすれば、こんなにもあたたかい時間を作れるんだということを、映画から感じていただきたいです。

Introduction

2010年本屋大賞にノミネートされ、第2位の栄冠を手にした小説「神様のカルテ」が期待の映画化を果たしました。地方医療の現実と、そのなかで成長していく一人の青年医師の姿をヒューマンに、ユーモラスに、ドラマチックに描いた作品は、観る人によってさまざまな思いを感じられる作品となっています。夏目漱石と妻をこよなく愛する内科医・イチを演じるのは櫻井翔。写真家であり、母性あふれる優しい妻は、宮崎あおいが演じます。監督は、いま邦画界で最も注目される深川栄洋。ピアノ・辻井伸行の作曲、演奏によるテーマ曲が作品にピュアな美しさを添えています。「神様のカルテ」とは、どのようなものだったのでしょうか。心の深いところを描きだす本格感動作が、観る一人ひとりに命の意義を問います。



©2011「神様のカルテ」製作委員会 ©2009 夏川草介/小学館

Story

青年内科医・栗原一止(櫻井翔)は「24時間、365日対応」を貫く医師不足の地方病院に勤務し、医療の理想と現実の間で悩みながらも、最愛の妻・榛名(宮崎あおい)の優しさに支えられて日々の激務を凌いでいた。そんなある日、大学病院から見放された末期がん患者・安曇雪乃(加賀まりこ)が、なぜか一止を頼ってやって来る。「なぜ自分を訪ねて来たのか?」「自分は彼女に何が出来るのか?」雪乃の余命と向き合いながら、その答えを探す一止だった。そして…。